



Ⅲ

活性化編

第8章 市場の活性化に向けた基本目標

第9章 札幌市場全体での取組

第10章 施設等の整備と改修

第8章 市場の活性化に向けた基本目標

1 活性化ビジョンの取組

市場関係事業者が策定した 10 年間の活性化の取組をまとめた活性化ビジョンは、活性化ビジョン推進委員会が中心となり、全取組項目 149 項目のうち 122 項目について、検討、着手しました（具体的な実施状況は第 12 章 3 「活性化ビジョンの取組結果」（P84～88）参照）。

○主要取組項目

		視 点	取組項目
北海道の拠点市場	活性化ビジョンの4つの視点	販売力の強化	○取引の最適化に向けた取引ルールの見直し及び検証（せり売と相対取引の割合の見直し） ○補助事業の活用による販路の拡大
		情報発信機能の強化	○各種広報媒体の積極利用による情報発信（パンフレットをホームページで公開） ○「印象的かつ簡潔な周知」などを目的として、市場ロゴマークを作成 ○市場ロゴマークを端的に表現するキャッチコピー「いちばいちばん」、デザインを作成 ○札幌市中央卸売市場の機能や魅力等を周知するため、いちばいちばん宣言やソング動画等を作成（ポスター、YouTube等を通じて周知を実施）
		市場機能の強化	○北側駐車場用地等市場用地の有効活用に向けた検証 ○物流動線効率化に向けた売場等における使用ルール及び運用実態の検証
		集客力の強化	○見学者に対し市場周辺商業ゾーン（飲食店等）のガイドを配布 ○消費拡大フェアの開催（令和元年の来場者数約31,000人）
開かれた市場	緊急課題	環境にやさしい市場づくり	○一般ごみの適正な受益者負担に伴う排出量の削減 ○照明設備のLED化（照明使用電力約60%削減） ○資源リサイクル施設及び太陽光発電施設の稼働
		災害に強い市場づくり	○地下水活用システムの整備 ○道内卸売市場災害対応等ネットワークにおける災害時相互応援協定の拡充
未着手			①マーケットに出回っていない新商材等について売場増設 ②市場と周辺事業者によるイベントのカレンダーを作成し、市場見学者、消費者に配布

活性化ビジョンでは、こうした取組の他、企業コンプライアンス意識の向上を図るためにコンプライアンス推進会議を設置し、研修等を札幌市場全体で行ってきたことや、品質衛生管理のポイントをまとめた「品質・衛生ハンドブック」の作成も行ってきたところです。

なお、第1次プロジェクトの活性化ビジョンにおいて、前ページの表に記載している未着手①のように継続検討が必要な施設整備に係る取組や、未着手②のような優先度が劣後している等の理由で検討未着手となっている取組が27項目あります。この未着手項目についても課題整理や継続項目等の総括を実施しており、その総括を踏まえ、市場関係事業者が主体的に、第2次プロジェクトに引き継いでいきます。

札幌市場を取り巻く環境は今後も厳しいものであると予想されますが、第2次プロジェクトの策定にあたっては、第1次プロジェクトで取り組んできた経験を活かしつつ、時代の変化に柔軟に対応していくことが求められます。



市場ロゴマーク



品質・衛生ハンドブック



市場キャッチコピー「いちばいちばん」



3万人以上が来場する消費拡大フェア

2 市場の活性化に向けた基本目標

第1次プロジェクトの取組や基本方針を踏まえ、今後10年間における基本目標を「経済」「環境」「安全・安心」の3つの観点から決めました。

経済 食品流通の拠点として地域経済に貢献する市場

札幌市場は、豊富な生鮮食料品を日本各地の生産者から集荷し、これらを必要とする小売店、量販店等の実需者¹⁹へ迅速に販売するという食品流通の拠点としての役割を果たしています。生産者と実需者のニーズをマッチングさせることで集荷と販売の好循環を生み出し、継続的な市場の活性化を図ることで、地域経済の発展に貢献していきます。

また、市場に集まる北海道産品の魅力を積極的に発信し、販売につなげることで市場の魅力を高める取組も行っています。

市場流通を担う企業のほとんどは札幌市内を拠点としており、地域経済においても重要な働く場となっています。市場が働く人々にとって安心して働ける場所であり続けることで地域経済を支えています。

環境 海と大地とともに歩む環境負荷の少ない市場

札幌市場で取り扱う水産物、青果物は海と大地の恵みであり、北海道の豊かな自然環境があればこそのものであります。市場で使う冷蔵庫や施設、車両などについては、自然環境を守るため新エネルギーの利用など環境負荷の軽減に向けた取組を検討します。

さらに流通の拠点である市場には日々多数のトラック等が集まります。物流の効率化を推進することで、CO₂の削減に努めるとともに、生鮮食料品を扱う市場として、率先して食品ロス削減に取り組んでいきます。

また、市場は生鮮食料品流通の社会的インフラとして、災害発生時においてもその機能を維持していくために防災・減災の取組を推進します。

安全・安心 食品の安全・安心を守る市場

生鮮食料品を扱う際には、衛生管理や鮮度保持等の品質衛生管理の点において高いレベルが求められます。

各市場関係事業者がHACCPに基づく衛生管理を徹底し、またそれぞれの食品特性に応じた適切な取扱いをすることで市場における生鮮食料品の安全・安心を確保します。食の安全・安心については市民の関心も高いことから、市場における安全・安心の取組について積極的に発信していきます。

19【実需者】八百屋や魚屋などの小売店、外食産業、中食産業、スーパーなどの量販店、加工業者などのバイヤーを指し、消費者は含まない。

3 課題の整理

これまで見てきた札幌市場の現状と、この章で定めた基本目標とのギャップから、課題と施策を以下のとおり整理しました。

(1) 地域経済に貢献する市場に向けて

地域経済の好循環を生み出すためには、日々の市場取引を活性化させる必要があります。「ヒト」、「モノ」、「カネ」そして「情報」が集まる市場の特性を活かしながら、市場における取扱高の減少に対する方策を検討します。

(2) 環境負荷の少ない市場に向けて

自然の恵みである生鮮食料品の安定的な生産に寄与するため、札幌市場においても再生産可能な食材を扱うことや、自然環境に配慮した業務や施設の在り方の検討を行う必要があります。

(3) 安全・安心を守る市場に向けて

理念にも掲げた生鮮食料品の安全・安心の確保は、市場流通を担う上で、もっとも重要なことの一つです。HACCP への対応も含め、引き続き安全・安心を確保していきます。

基本目標	課題	施策
地域経済に貢献する市場	取引の強化	販売力・集荷力の強化
		公正かつ効率的な取引の推進
	北海道産品の魅力発信	消費拡大のための取組
	働きやすい環境整備	労働環境の向上
環境負荷の少ない市場	物流の効率化	施設利用の効率化と有効利用
	環境負荷の軽減	環境面に配慮した取組の強化
安全・安心を守る市場	安全・安心の担い手の育成	健全な企業経営の確保
	HACCP への対応	衛生管理も含めた適切な施設利用
	市場に対する理解の促進	情報発信機能の強化